

第90回定期全国大会開催

誤った政策による自動化・合理化は許さない



全日本港湾労働組合の第九〇回定期全国大会を、九月十一日、十二日の二日間、シーパレスにて開催した。全国から大会代議員八九名、中央本部役員一九名、傍聴者を含め二二七名が出席、議長団は宇野克巳代議員（関西）、竹森将一代議員（四国）が務めた。役員については改選はなかったが、全国港湾の委員長代行を務めていた松本耕三特

全日本港湾労働組合の第九〇回定期全国大会を、九月十一日、十二日の二日間、シーパレスにて開催した。全国から大会代議員八九名、中央本部役員一九名、傍聴者を含め二二七名が出席、議長団は宇野克巳代議員（関西）、竹森将一代議員（四国）が務めた。役員については改選はなかったが、全国港湾の委員長代行を務めていた松本耕三特

大会宣言

私たちは、愛知県豊橋市において第90回定期全国大会を開催し、労働者の働く権利の確立と生活向上をはかり、格差社会を是正し、戦争のない平和な社会をつくり、安心と共生の社会をめざし、産業別労働運動と地域運動、国際運動と連帯し、全港湾を強化し拡大する2018・19年度運動方針の補強を決定した。

安倍政権による国民無視の政治は、大手企業を最優遇し、中小零細企業の切り捨てによって企業間格差が広がっていると同時に、労働者の貧富の差が拡大され続けている。更には、「働き方改革関連法」により、残業代ゼロ法や過労死レベルとされている月間100時間上限規制など労働者を守るべき労働法が改悪され、労働者の権利と生活の向上が阻害されている。一刻も早く、国民主権の政治を取り戻さなければならない。

来月10月には消費税が10%にまで引上げられるが、老後2,000万円問題で明るみに出たように、年金制度改悪によって国民の不安は増すばかりか、高齢者医療費負担増、介護保険制度改悪、労働者派遣法改悪など、国民の生活権が崩壊しようとしている。国民誰もが安全で安心して暮らせる社会保障制度の拡充を実現しなければならない。

先の参議院選においては、民意は辛うじて改憲勢力の発議に必要な三分の二を渡さなかったが、安倍首相は任期中の改憲を諦めてはいない。辺野古新基地建設に見られるように、国民の声を聴かない安倍政権には退場をせよと声をあげなければならない。

東日本大震災による原発事故は、まだ収束していない。被災者への補償打ち切りや原因究明と対策を何ら進めないなかで、政府は全国各地の原発再稼働を企んでいる。私たちは、国策による人災によって今なお苦しんでいる被災者の実態を風化させることなく、原発再稼働反対を訴えていかなければならない。

物流分野において世界的に自動化・機械化の流れの中、日本でも「PORT2030」に見られるように、港湾機能の一部自動化、トラックの無人隊列走行、長尺連結など、国策による実証実験と実用化が推し進められ、名古屋港では「遠隔操作RTG事業への支援制度」などが労働者の声を聴かずに進められている。この流れを止めるには更なる港湾産別運動を強化しなければならない。

労働者不足への対策や物流改革、国際競争などと理由を並べているが、実態はコストダウンを目論んだ合理化や規制緩和であり、安全対策や雇用対策など労働者の権利は一切無視されている。労働者の職域確保、権利維持と拡大のために間違った合理化政策や規制緩和は正さなければならない。

このような情勢の中で私たちは、全国で働く多くの仲間とともに、国家権力と国家弾圧をエスカレートさせる安倍政権を打倒し、平和で公平な社会の実現と、安心・安全な職場環境の実現に全力で取り組む。

更に、2018・19年度運動方針を前進すべく、労働者、国民の要求実現と労働組合の社会的影響力の向上を実現するため、組織拡大・組織強化に全力を挙げて取り組む。

以上、新たな決意のもとに組織の総力を挙げてたたかい抜くことを宣言する。

2019年9月12日 全日本港湾労働組合 第90回定期全国大会



東京都大田区蒲田
5の10の2
全日本港湾労働組合機関紙
(毎月1日発行)
一部20円 (組合員の購読料は組合費の中に含む)
発行責任者
松永英樹



運動の基調については変更なし。補足の部分としては「春闘要求額については賃金検討委員会を開催して検討をおこなない、様々な職種があるなか、いかに最賃の引き上げに取り組みか議論したい」とし、真島委員長の総括答弁として「産別協議体制の否定の動きに対しては、未組織の組織化に取り組み、力をつけていく必要がある。トラック・

バス・タクシーなどは非常に厳しい環境にある。労働組合の存在意義を明確にした。また、代議員からは一九九〇年度春闘について賃金交渉が非常に多く出された。この点について執行部は、港湾産別交渉体制を維持していくことが何より重要であるとし、産別最賃の取り組み方について等議論を重ねていくとした。

そして最後に、二〇一八・一九年度の運動方針の補強を満場一致で確立した。

第二議題 一八年度決算報告、会計監査報告、一九年度予算

決算については、ほぼ予算通りの執行となり問題なし。

また、全港湾会館の労働部が築三〇年を経過し傷みが生じてきたことから大規模な修繕を今現在おこなっている。そして、修繕にもないことでの積立金を取り崩すこと、再度将来の修繕を見越して、本年度から会館補修引当金として年六〇万円を積み立てていくと了承された。

第三議題 秋年末闘争方針

秋年末闘争については、引き続き労働条件の引き上げ、定年延長等々に取り組んでいく。冬季一時金闘争については十一月下旬を解決目標とし、要求額については、昨年同様の率・額以上とする。二〇一九年度の運動方針は、中央港湾団交開き、春闘での中核的交渉となり、春闘要求額、産別制度政策要求について、分会旗を授与した。組合員在籍三〇年表彰

は、一月三十日、三十一日に開催する中央委員会で決定していくとした。そして、組織の強化と拡大に取り組んでいくとし、原案どおり可決した。

第四議題 年間ストライキ権の確立

スト権投票の結果、提案どおり、年間スト権を確立した。

新規加入分会紹介

東北地方、関東地方、関西地方、四国地方の八分会を紹介し、分会旗を授与した。

一六〇名を表彰し、東北地方塩竈支部の長南安典氏が総代を務め記念品を受け取った。

(片柳悦正)

開会あいさつ(概要)

中央執行委員長 真島勝重



たという話は、全港湾の場合には労働基準法以上の協定を結びながらやっているのだから、暮らしがよくなっていくという話ばかりではない。

バブルが崩壊して、その後二〇一五年のデータを見ると、今日日本人一人あたりの可処分所得は、平均で二四五万円のこと。そしてこの平均値の半分以下の方が貧困層とよばれている。一九九七年の統計から実に平均値で五〇万円以上も下がっている。これは、新自由主義によるところの格差社会の拡大、一部の大金持ちと貧困層とに別れる層層がなくなってきたことによる平均値が下がっていると思う。そして低所得層がどんどん増え続けている。

さらに今、労働力不足を理由にしてAI化が加速してきている。いわゆる機械化・自動化への加速が進んでいる。これからはもう進んでいくと、残念ながら言われている。銀行や生命保険会社、一部の自治体ではデータ処理なども自動化になっている。そうした中で自動処理への置き換えが分らない間にどんどん進んで来ている。着眼すべきことは、これらの自動化によって正規職員はそう影響は受けにくくても、非正規で雇用され今まで働いてきた方々がどんどん切り捨てられている。私たちが労働組合として、こうした格差社会がこれ以上広がらないように監視していかねばならない。

さて、来月からは消費税が一〇%にあがる。軽減税率で外食したら云々、キャッシュバック云々があるとかないとか、よく分からない状況となっている。一年前のデータではあるが、中小企業においては、具体的対策が打てていないところがある。六割以上とあってはいた。そうであれば対応が遅れた分、非常に混乱しないかと思う。

消費税は高額所得者であり低所得者であり買物をするというところ。所得が一〇〇万円の人が一万円のものを買っても二四五万円の人が一万円の買物をするのも同じ税金を取り出すという話。さらに中小企業は価格に転嫁できないという弱みもある。

今、国内の景気は悪化している。今年度の一月から三月の消費者指数はマイナスで消費は落ち込んでいた。十月以降は景気がどん底まで落ち込むことも予想されている。過去に三回、消費税三%、五%、八%と引き上げられてきたが、三%の時元の景気に戻るまで半年かかっていた。五%になった時は六年かかった。八%の時も三年半くらいかかっていた。今回引き上げられると景気が戻るまで数年はかかると思われる。今後の老後の年金二〇〇万円不足するとの話もあった。今の政治は私たち国民の方を全く向いていない。一部の既得権益者の利益しか守っていない。定年も六五歳から七〇歳へと、年金も七〇歳から七五歳などと言いはじめ始めている。それで働き方改革などと言っているのだからと。将来に希望の持てる社会でなければならぬであろう。

また、沖縄での辺野古の問題、新基地建設問題がある。隣の国々とは話し合いをしよともせず、アメリカ一辺倒を貫いている政治状況。原発事故の検証もきちんとされず、再稼働もおこなわれている。かつては自民党の中にもハト派と呼ばれる方々がいて、平和主義、戦争はダメだという方々もいたと覚えている。しかし、安倍一強体制になってからは物言う与党議員が全くなくなった。この日本をよくするには安倍政権を引きずり下ろすしか道はないであろう。

五月に全港湾の労働講座を開催して、その時に今後の港政策について話をしたが、ポルト二〇三〇により二〇三〇年までに日本の港において労働力不足の解消、国際競争力強化の道のりが発表されているが、トラックにおいても来年までには高速道路で隊列走行を成功させたい、二〇二五年までには高速道路での完全自動運転を目標としている等々がある、だから港の遠隔操作くらいではないかと、その程度のことではなから、き上げることを基本として活発な討議をお願いする。

ち労働組合として、こうした格差社会がこれ以上広がらないように監視していかねばならない。

さて、来月からは消費税が一〇%にあがる。軽減税率で外食したら云々、キャッシュバック云々があるとかないとか、よく分からない状況となっている。一年前のデータではあるが、中小企業においては、具体的対策が打てていないところがある。六割以上とあってはいた。そうであれば対応が遅れた分、非常に混乱しないかと思う。

消費税は高額所得者であり低所得者であり買物をするというところ。所得が一〇〇万円の人が一万円ののものを買っても二四五万円の人が一万円の買物をするのも同じ税金を取り出すという話。さらに中小企業は価格に転嫁できないという弱みもある。

今、国内の景気は悪化している。今年度の一月から三月の消費者指数はマイナスで消費は落ち込んでいた。十月以降は景気がどん底まで落ち込むことも予想されている。過去に三回、消費税三%、五%、八%と引き上げられてきたが、三%の時元の景気に戻るまで半年かかっていた。五%になった時は六年かかった。八%の時も三年半くらいかかっていた。今回引き上げられると景気が戻るまで数年はかかると思われる。今後の老後の年金二〇〇万円不足するとの話もあった。今の政治は私たち国民の方を全く向いていない。一部の既得権益者の利益しか守っていない。定年も六五歳から七〇歳へと、年金も七〇歳から七五歳などと言いはじめ始めている。それで働き方改革などと言っているのだからと。将来に希望の持てる社会でなければならぬであろう。

また、沖縄での辺野古の問題、新基地建設問題がある。隣の国々とは話し合いをしよともせず、アメリカ一辺倒を貫いている政治状況。原発事故の検証もきちんとされず、再稼働もおこなわれている。かつては自民党の中にもハト派と呼ばれる方々がいて、平和主義、戦争はダメだという方々もいたと覚えている。しかし、安倍一強体制になってからは物言う与党議員が全くなくなった。この日本をよくするには安倍政権を引きずり下ろすしか道はないであろう。

五月に全港湾の労働講座を開催して、その時に今後の港政策について話をしたが、ポルト二〇三〇により二〇三〇年までに日本の港において労働力不足の解消、国際競争力強化の道のりが発表されているが、トラックにおいても来年までには高速道路で隊列走行を成功させたい、二〇二五年までには高速道路での完全自動運転を目標としている等々がある、だから港の遠隔操作くらいではないかと、その程度のことではなから、き上げることを基本として活発な討議をお願いする。

誤った政策による自動化・合理化は許さない、規制緩和を許すこと無く、労働者の権利をさらに強化していかねばならない。全港湾が先頭にたって、青年部が未来を明るく思えるような社会を築き上げることを基本として活発な討議をお願いする。

誤った政策による自動化・合理化は許さない、規制緩和を許すこと無く、労働者の権利をさらに強化していかねばならない。全港湾が先頭にたって、青年部が未来を明るく思えるような社会を築き上げることを基本として活発な討議をお願いする。

誤った政策による自動化・合理化は許さない、規制緩和を許すこと無く、労働者の権利をさらに強化していかねばならない。全港湾が先頭にたって、青年部が未来を明るく思えるような社会を築き上げることを基本として活発な討議をお願いする。

また、沖縄での辺野古の問題、新基地建設問題がある。隣の国々とは話し合いをしよともせず、アメリカ一辺倒を貫いている政治状況。原発事故の検証もきちんとされず、再稼働もおこなわれている。かつては自民党の中にもハト派と呼ばれる方々がいて、平和主義、戦争はダメだという方々もいたと覚えている。しかし、安倍一強体制になってからは物言う与党議員が全くなくなった。この日本をよくするには安倍政権を引きずり下ろすしか道はないであろう。

また、沖縄での辺野古の問題、新基地建設問題がある。隣の国々とは話し合いをしよともせず、アメリカ一辺倒を貫いている政治状況。原発事故の検証もきちんとされず、再稼働もおこなわれている。かつては自民党の中にもハト派と呼ばれる方々がいて、平和主義、戦争はダメだという方々もいたと覚えている。しかし、安倍一強体制になってからは物言う与党議員が全くなくなった。この日本をよくするには安倍政権を引きずり下ろすしか道はないであろう。

また、沖縄での辺野古の問題、新基地建設問題がある。隣の国々とは話し合いをしよともせず、アメリカ一辺倒を貫いている政治状況。原発事故の検証もきちんとされず、再稼働もおこなわれている。かつては自民党の中にもハト派と呼ばれる方々がいて、平和主義、戦争はダメだという方々もいたと覚えている。しかし、安倍一強体制になってからは物言う与党議員が全くなくなった。この日本をよくするには安倍政権を引きずり下ろすしか道はないであろう。

また、沖縄での辺野古の問題、新基地建設問題がある。隣の国々とは話し合いをしよともせず、アメリカ一辺倒を貫いている政治状況。原発事故の検証もきちんとされず、再稼働もおこなわれている。かつては自民党の中にもハト派と呼ばれる方々がいて、平和主義、戦争はダメだという方々もいたと覚えている。しかし、安倍一強体制になってからは物言う与党議員が全くなくなった。この日本をよくするには安倍政権を引きずり下ろすしか道はないであろう。

また、沖縄での辺野古の問題、新基地建設問題がある。隣の国々とは話し合いをしよともせず、アメリカ一辺倒を貫いている政治状況。原発事故の検証もきちんとされず、再稼働もおこなわれている。かつては自民党の中にもハト派と呼ばれる方々がいて、平和主義、戦争はダメだという方々もいたと覚えている。しかし、安倍一強体制になってからは物言う与党議員が全くなくなった。この日本をよくするには安倍政権を引きずり下ろすしか道はないであろう。

また、沖縄での辺野古の問題、新基地建設問題がある。隣の国々とは話し合いをしよともせず、アメリカ一辺倒を貫いている政治状況。原発事故の検証もきちんとされず、再稼働もおこなわれている。かつては自民党の中にもハト派と呼ばれる方々がいて、平和主義、戦争はダメだという方々もいたと覚えている。しかし、安倍一強体制になってからは物言う与党議員が全くなくなった。この日本をよくするには安倍政権を引きずり下ろすしか道はないであろう。

また、沖縄での辺野古の問題、新基地建設問題がある。隣の国々とは話し合いをしよともせず、アメリカ一辺倒を貫いている政治状況。原発事故の検証もきちんとされず、再稼働もおこなわれている。かつては自民党の中にもハト派と呼ばれる方々がいて、平和主義、戦争はダメだという方々もいたと覚えている。しかし、安倍一強体制になってからは物言う与党議員が全くなくなった。この日本をよくするには安倍政権を引きずり下ろすしか道はないであろう。

また、沖縄での辺野古の問題、新基地建設問題がある。隣の国々とは話し合いをしよともせず、アメリカ一辺倒を貫いている政治状況。原発事故の検証もきちんとされず、再稼働もおこなわれている。かつては自民党の中にもハト派と呼ばれる方々がいて、平和主義、戦争はダメだという方々もいたと覚えている。しかし、安倍一強体制になってからは物言う与党議員が全くなくなった。この日本をよくするには安倍政権を引きずり下ろすしか道はないであろう。

また、沖縄での辺野古の問題、新基地建設問題がある。隣の国々とは話し合いをしよともせず、アメリカ一辺倒を貫いている政治状況。原発事故の検証もきちんとされず、再稼働もおこなわれている。かつては自民党の中にもハト派と呼ばれる方々がいて、平和主義、戦争はダメだという方々もいたと覚えている。しかし、安倍一強体制になってからは物言う与党議員が全くなくなった。この日本をよくするには安倍政権を引きずり下ろすしか道はないであろう。

新たに8分会が全港湾の仲間

2018年度、全港湾に新しく8分会の仲間が加入した。大会当日は、都合により参加できなかった分会もあったが、船通分会の小松田一彦さん、新興海運分会の金正基さん、さくらタクシー分会の片山岳二さん、サヌキ松谷分会の園原悠平さんが登壇し分会旗を受け取った。登壇した方々からは「全港湾に入るまでは夜通し働いてきたが有給もなかった。委員長に惚れた！全港湾の歴史を継承し、一致団結してたたかっていたい」等々の発言があり、会場から大きな拍手を受けていた。

また、船通分会の小松田さんからは「組合に入る前は労働条件も悪い中で、正当な理由もなく一方的に通勤手当や家族手当の減額、最終的には基本給が2割カット、それに対して個々で反論すると賞与も他の従業員より2割減額され、都合の悪い事は何の説明もなく書面に残さず逃げられていた。そんな会社のやり方にどうする事も出来なかった。団結という二文字には大きな力がある事を感じた。一致団結し労働条件の改善、生活の安定に取り組んでいきたい」とのコメントが編集部へ寄せられた。



東北地方秋田支部船通分会	35名	トラック
関東地方横浜支部新興海運分会	26名	船内
関西地方大阪支部協和化工分会	9名	製造業
関西地方大阪支部リクスラスト分会	1名	その他
関西地方大阪支部さくらタクシー分会	30名	タクシー
関西地方大阪支部東鉄運輸分会	15名	トラック
関西地方大阪支部樽本機工分会	5名	場内
四国地方香川県支部サヌキ松谷分会	5名	製造業
計8分会	126名	

退任のあいさつ

前特別中央執行委員
前全国港湾委員長代行

松本耕三



一九七三年十月に加盟してから四十六年間、全港湾の組合員としてたたかえたことを誇りに思っています。

全港湾の運動を振り返ると、二つ、特徴的な思いがあります。第一に港湾産別運動の中で、全港湾が中心的な役割を果たしてきたことです。これは、休みもなく長時間労働、

たかいを展開しました。

第二には、全港湾が、規約の個人加盟により企業内運動の限界を克服し、たたかう労働運動の中心を担ってきたことです。多くの労働組合が企業内運動の中心になっていく中で、全港湾のたたかいは、抜群の存在感でした。たたかう労働運動の結果を振り返ると、反戦平和や人権擁護、脱原発のたたかいは先頭に立ってききました。全港湾のたたかう姿勢は、私の人生におおきな活力と明確な道しるべを与えてくれました。多くの仲間のおかげで、このたたかいは、なかなか結果につながりませんでした。と同時に、頑張りましょう」と申し上げて、退任のあいさつとします。ありがとうございました。

危険な職場で働かされ、過酷な労働条件だった港湾労働、その労働条件改善のための政策要求が突出した。「共同雇用制度の実現」、「魅力ある港湾労働の確立」を合言葉に、コンテナ荷役導入に対して日港協と団交の確立、全港湾の結成から今日に至るまで、産別雇用保障制度のた

格差が広がりが貧困が拡大する社会、富裕者に手厚く弱者に過酷な政治、近隣諸国への対立を繰り返す戦争の危機を深める政治からの転換のため、若い世代の奮闘を期待します。そして、頑張りましょう」と申し上げて、退任のあいさつとします。ありがとうございました。

在籍三〇年表彰を受けて

東北地方塩竈支部 長南安典



次期の会社は労働組合組織されているところと決め就活。二四歳の時に全港湾に加入し三〇年、最初に塩竈分会青年婦人部の活動をし今日まで全港湾方針のもと、組合運動に参加取組んできました。

組合員の皆さん日々の組合運動の取組みが苦労様です。この度、九〇回定期全国大会にて組合員在籍三〇年表彰で一六〇名の総代として頂きました東北地方塩竈支部塩竈分会の長南です。

全港湾加入前、高卒で民間企業に就職し四年の間に何回か企業と個人賃金交渉していたころ、国労出の方が来られ労働組合の話をするうちに、

そんな中、二〇一一年三月十一日東日本大震災が起き、東北太平洋側で沿岸地域に住む住民や企業は甚大な損害を受けましたが、全国の皆様より多大なるご支援を賜り、復興することができました。心より感謝申し上げます。しかしながら福島原発事故での原発廃炉・訴訟問題・子供たちの甲状腺がん、これから



全港湾第90回定期全国大会議長団



竹森代議員（左）、宇野代議員（右）

全国港湾第一二回定期全国大会 産別最賃問題は中労委へ救済申請の方向



全国港湾は、九月十八日、十九日、第二回定期大会を開催した。大会にはオプザーバーを含めて二八九名が出席、全港湾からは五四名が出席した。来賓には港運同盟、ITF東京事務所、こくみん共済が出席、大会議長団は石渡代議員（検数労連）と川崎代議員（大港労組）が務めた。役員については松本中央執行委員長代行（全港湾）、柳野中執（全倉連）、瀬川中執（全倉連）、山田中執（全日通）、高野中執（全日通）の五名が退任、新執行部については糸谷中央執行委員長（日港労連）、柏木中央執行委員長代行（日港労連）、真島副委員長（全港湾）、竹内副委員長（日港労連）、遠藤副委員長（検数労連）、瀬戸副委員長（検数労連）、玉田書記長（全港湾）、市川書記次長（検数労連）の体制となった。

大会においては様々な課題についての議論が熱心におこなわれた。懸案となっていた産別最賃回答拒否の問題については、産別交渉を維持できるような様々な手を尽くしてきたが、中央労働委員会でのあっせんが不調に終わったことから今後の方向が注目となっていたが、まずは中央労働委員会に不当労働行為救済申請をおこなう、再度、中央労働委員会の判断を仰いでいく方向性を確認した。執行部は大会終了次第、

救済申請の準備に入っていきたいとした。また、全国港湾の規約改正問題については、連合体にふさわしいより民主的な運営が可能となるよう、代議員数の見直しも検討しながら、次の大会では承認できるように努力していくとした。RTG遠隔操作化などの機械化・自動化問題については、労働者の雇用・職域が脅かされる、体制的合理化と捉えられ、断固反対していくとした。

そして、職場から現場から労働条件の改善を訴え、地域の問題を全国の問題として、受け止めながら、業界を包囲し、改善を求めて団結し、運動に取り組んでいくとした。

二〇一九秋年末闘争については、秋の中央行動を十一月十四日、十五日に予定、二〇春闘については、中央委員会を二月五日、六日に開催し、春闘方針を決定、二月十九日に第一回中央港湾団交を予定したいとした。

そして大会討議の結果、「二〇一八年度の主な取り組み経過（案）」、「二〇一九年度運動方針（案）」、「産別ストライキ権の確立について（案）」、「全国港湾規約の改正及び『規約・綱領・規定（規程）改定案』の取り扱いについて（案）」、「決算予算（案）」、「二〇一九年秋年末における具体的活動方針について（案）」等すべての議案を可決、二〇一九年度運動方針を確立した。そして、最後に大会宣言を採択し大会を終了した。（片柳悦正）

大会参加者の声

北海道地方釧路支部

川奈部若之



できるかとても重要であると感じました。

私は今回の第九〇回定期全国大会が初めての参加となりました。二日間にわたる本大会では、各地方の現状や問題点が活発に議論されており、その中でも来年の東京オリンピック・パラリンピック開催期間中の運送会社に関する交通渋滞等の問題点や女性トラック運転手が増えている現状で待機中にトイレが無いといった問題点などが特に印象に残っております。私の働いている会社にも女性職員がおりますが、働く女性が増えている一方で、いかに女性が働きやすい環境を整備することが皆さん二日間お疲れ様でした。

東北地方小名浜支部

田久祐一郎



全港湾組合員の皆さまお疲れさまです。東北地方小名浜支部の田久です。

第九〇回定期全国大会に初めて参加させていただきました。どんな議論、討論になるのか興味津々でした。各地本

から様々な質疑や意見が出され、それに対する中央本部による答弁を聞き、内容が理解できない事もありメモを取ることに必死でした。

一九産別春闘の全国港湾のストライキの在り方について多くの意見が出され、中でも「産別賃金を守る春闘ではないのか?」「産別運動について全港湾はどこへ向かっているのか?」「地方港にとっては何のために行ったのか結果が見えないストライキだった」など、厳しい意見もあり、地方港で働く自分にとっても色々考えさせられました。

また、大会中に東北地方青年部から被災地状況についての説明があり、写真の資料を見ながら現在の福島について話を聞きました。避難者への補償の打ち切りや、帰還困難区域について話があり、原発事故問題についてもさらに考えていきたいと感じました。

日本海地方七尾支部

小林創史



活発な質疑・討論が行われました。特に第一議題では一九産別・二〇春闘に向けて「どう闘うのか」などとても勉強になりました。

第九〇回定期全国大会に参加された皆様、二日間たいへんお疲れ様でした。私は今回初めて定期全国大会に参加させていただきました。全国的な問題や各地方・支部での問題など、色々な意見が出さ

話の聞きかたも、我々東北地方小名浜支部としても積極的に協力しながら活動していきたいと思えます。青年部の発言にもあったように、全港湾が脱原発運動をけん引していき存存であってほしいと思えます。

最後に、全国大会に参加して、各港を取り巻く情勢を知ることができ貴重な経験になりました。改めて全港湾の組合員の仲間と深い絆で繋がっている事を感じました。

関東地方横浜支部

金正基



最後にありますが議長団をはじめ、今定期大会の準備、

関東地方横浜支部、新興海運分会で分会長をやっております。金正基と申します。私達新興海運分会は、昨年十一月十五日に結成し、徐々にではありますが、確実に会社の対応が変わってきています。

分会結成前は、私達労働者として、過酷な労働環境でまだ未熟で、今は自分達の手一杯ですが、これから色々な事を学び、まずは自社を改善し、ゆくゆくは私達に悪質な労働環境で、苦しんでいる人達を助けられる様な分会を目指しております。

第九〇回定期全国大会に参加された皆様、二日間たいへんお疲れ様でした。名古屋支部執行委員の羽賀と言います。

東海地方衣浦支部

畠中商博



じるほどに共感出来ました。

まず、国内の政治問題、安倍政権下で国民不在の戦争法案、憲法改悪、消費税増税等、真島委員長いわれた「声を出さない民は滅びる」という言葉に声を上げていかなければと思えました。

第九〇回定期全国大会に参加された皆様大変お疲れ様でした。大会前には台風が関東地方を直撃し、コンテナが倒れるなど被害がある中の参加、大変だったと思います。

私は今回が二回目の参加ですが、初参加の際には参加者の多さに驚くばかりで議論の内容もあまり理解できませんでした。二回目の参加となった今回は、質疑、討論に熱を感じる仲間が一緒だと心強くなりました。

東海地方名古屋支部

羽賀達也



支部、全検分会にこの場を借りてお礼申し上げます。

今年の一九春闘は全国港湾で平日に二四時間ストライキを行ったこともあり、大会議論の中でとても多くの議論が各地方から出されました。大会議論の中で、神戸港PCR一八のスト破りにかんする議論は大変共感を覚えました。

第九〇回定期全国大会との節目の大会に会場係として大会に携われたことに感謝し、私を送り出して頂いた名古屋

りました。

夜の懇親会ではこの大会に出席しなければ会うこともできなかった方々といろんな話をさせて頂き自分の支部との違いや、人材確保など共通の問題に同じように苦慮されていることを知って共に全港湾の仲間として今後の活動の仕方について役に立つ話をさせて頂きました。支部に帰ったら自分たちは全港湾の一員だと実感できる活動をしていきたいと思えます。最後になりましたが、議長団をはじめ今定期大会の準備、運営に携わって頂いたみなさま大変お疲れ様でした。今大会で得た情報やみなさんの全港湾を想う熱い気持ちや支部を持ち帰り今後も組合活動に頑張っていきたいと思えます。

脱原発に向けた問題提起と現状の報告には同じ青年部として感銘を受けました。

今年の一九春闘は全国港湾で平日に二四時間ストライキを行ったこともあり、大会議論の中でとても多くの議論が各地方から出されました。大会議論の中で、神戸港PCR一八のスト破りにかんする議論は大変共感を覚えました。

第九〇回定期全国大会に参加された皆様、二日間たいへんお疲れ様でした。名古屋支部執行委員の羽賀と言います。

／生かされる様、頑張った。この場を借りてお礼を申動していただけたらと思います。最後に、今回大会に係わった運営の皆様、お疲れ様でした。

関西地方神戸支部



大会参加者全員で「港湾労働者の歌」を歌うことから始まり、参加者の積極的に参加する意志が歌声の大きさ・迫力から伝わってきました。

私は代議員として参加させていただきました。代議員として参加させていただき、代議員席に座って会場を見ていたが、議題討論では代議員から発言の手が直ぐに上がっていました。そして、発言が一人終われば、その発言について関連の発言を求める手が次々と上がるといふ白熱した討論が行われ、代議員の意識の高さと各地方で多くの問題を抱えていることが伝わってきました。

私は港湾労働者ではなく、路線バス運転士をしています。発言の中にあった六大陸と地方港間における賃金格差や、港における自動化問題、港湾労働者の職域を脅かす問題は、我々では民間と公営による賃金格差と似たところがあると感じましたし、バスですすでに自動運転の社会実験が始まっています。ライドシ

四国地方徳島支部



エアなど二種免許が必要な業務を一般人でも行えるようにするという話もあり、他人事とは思えない問題が起きていくことに驚きました。

また、港湾に関しては全国規模を感じる議論でしたが、我々バスに関しては私鉄総連に加盟している労働者が多く、まだまだ全港湾としての組織を活かす所までは程遠いと感じました。代議員としてバス業界のことを今回発言させていただきましたが、まずはバス業界の事を皆さんに知ってもらおうという次の目標が見えました。

最後になりましたが、今大会の運営に携わった皆様ありがとうございました。



木村浩暢

山根承光

また、私の出身分会である、徳島ハイウェイサービス分会は本四架橋が開通してからこれまでの間に、民営化やETC導入によって、委託料減額や人員削減が行われ、多くの仲間が職場から去ってしまいました。NEXCO西日本との合併や料金収受の自動化により、今回はさらに多くの人員削減が予測されます。これらの問題を特別代議員の立場であるにも関わらず、発言する機会をいただき、本当にありがとうございました。

はじめに、今定期大会に参加する機会を与えていただいた、四国地本橋崎委員長はじめ、四国地本、徳島支部の皆様と、初めて参加し右も左もわからない私を、温かく受け入れていただいた皆様に感謝いたします。

八月二十四日に行われた、第四五回全港湾徳島支部定期大会において副委員長を拝命し、元木委員長を支えていかねばならない立場であるにも関わらず、いまだ後ろをついて回っているだけの私ではありますが、今大会を通じて、全国で起こっている様々な問題について熱く議論する場を経験出来たことは、これから労働組合の活動をいくつうか、とても大きな経験となりました。

最後になりましたが、懇親会等で貴重な時間をいただいた方々に、この場を借りてお礼申し上げます。

第九十回定期全国大会に参加された皆様、大変お疲れ様でした。

九州地方関門支部

栗崎康幸

第九十回定期全国大会に参加された皆様、大変お疲れ様でした。

私は今回初めて定期全国大会に参加させて頂き、全国から集まった総勢二三七名の想像を上回る熱い議論に驚き、



感動しました。各支部が抱える大きな問題や、未だに帰宅困難区域のある福島の現状の報告などもありました。あまり報道もされなくなりましたが、忘れてはいけない現実があることを確認しました。

質疑応答では、異例の長期に渡った一九春闘の事に集中しました。「二年ぶりの平日ストライキまで打って我々の掌には何が残ったのか?」「中央の指示により、ストを打つのはいいが、地方では、労使の良好な関係が崩れることもある。中央は地方港を見ているのか?」など厳しい意見も出されました。

それ以外にも、「中央方針である、AIターミナルや港湾作業の自動化反対の方針でも人手不足問題に直面している」との回答をいただきました。

沖縄地方

宮里 爾

組合活動について正直十分に理解出来ておりませんでしたが、そんな状態で、全国大会に参加しても大丈夫なのかという大きな不安を抱えての参加となりました。大会の規模の大きさ、大会参加者の活発な議論にただただ圧倒させられました。未だに収束してない東日本大震災による原発事故問題や、遠隔操作RTG事業への支援制度問題など、とても大きな問題をより良い職場環境をつくる為に、熱意を持って討論している光景を



第九十回定期全国大会に参加された皆様、二日間大変お疲れ様でした。私は、琉球物流分会から今回初めて定期全国大会に参加させていただきました。

私自身、組合員になってまだ間もないという事もあり、

目の当たりにし、すごく感銘を受けました。また、各地方支部の方々と交流する機会もあり、とても貴重な経験をさせていただきました。この経験を今後の組織に行きたいと思っております。最後になりましたが、今大会に

定期全国大会のひとこま



合活動に活かして、大会宣言にあるように、平和で公平な社会の実現と、安心・安全な職場環境の実現に全力で取り組んでいきたいと思っております。最後になりましたが、今大会に携わった全ての皆様、大変お疲れ様でした。また、このように貴重な体験をさせていただきました。本当にありがとうございました。

大会代議員の発言

大会において活発な質疑がおこなわれ、各地方の代議員方々より多くの意見が出されました。共同デスクでは、代議員からの発言をできる限り伝えて行こうと、紙面の限られたスペースではありますが、分担をおこない、発言を要約し掲載して行くとしました。各地方から寄せられた報告をもとに、北海道、東北、日本海、関東、東海、関西、四国、九州の各地方からの発言を掲載します。

北海道

独禁法問題にどう挑むか

一九春闘における日港協の態度はいわゆる独禁法問題を解決に至るものではなかったが、二〇春闘を迎えるにあたって中央本部としてどのような態度で挑んでいくのか。春闘時の足並み統一を

同地区の同盟は毎春闘において全港湾と足並みが揃っているとはいえない。地区での問題だと捉えずに、中央同士でも協議をして然るべき対応を取らせてほしい。

事前協議違反のない体制に自衛隊車両輸送船の事前協議について、同船社配船の一船は事前協議を行ない、一船は事前協議を行わないまま入港・荷役を行っている。産別協定遵守の立場からは今後同船の事前協議体制を確立してほしい。

各代議員より、一九年春闘に関して多くの意見発言が出されていますので、私からは今春闘の検証と総括をして頂かないと、二〇年に於いて足並みが揃う事が出来ないと思えます。来春闘に於いて、本部分針の明確さと透明性を宜しくお願い致します。

東北

新規参入阻止の取り組み強化を 議案書にも載っているように、新規参入業者による事業免許限定解除の動きが昨年より活発になっています。港湾管理者に対して、使用申請

を提出しましたが現在では、内容差戻となっておりません。コンテナ取扱をする事によって貨物限定の拡張や限定解除を議論していると睨んでいます。未だに利用計画が未提示、運航船社の確認も取れていないため、許可には至ってませんが、秋田港の取扱量に増えつつある中、業者が増える事により職域に及ぼす大きな影響を懸念しています。我々は港湾の秩序を担保しつつ組合員の安定した生活水準を維持する上でも、参入阻止の運動を行って参りますが、本部による事前協議制度の強化や協力をお願い致します。

ながら、中小零細企業としては導入施行前に厳しい判断を迫られて、全港湾分会脱退を余儀なくされている現状です。都市も地方もドライバー不足の問題をどう果た国土交通省への働き方やドライバーからの訴えと共に要請と運動強化をお願い致します。

作業には一基およそ四〇年以上の時間が掛かると言われています。帰還困難区域以外の避難も解除され帰還を促されています。ライフラインも不十分の中で固定資産税も課税対象となり、生活の不安も未だに拭いきれずに避難生活を送られています。国政による線量数値の引き上げにより低線量被ばく区域でも避難解除され補償の打ち切りも進んでいます。特に、未来ある子供達の生涯に渡る健康管理の支援策、偏見・差別・教育・社会教育の推進を求めて小名浜支部一〇〇名も加わり奮闘しています。第二の福島県を出さないためにも、皆様方のご理解とご協力をお願いします。

トトラック関連です。標準貨物自動車運送の約款が「平成二十九年十一月」施行され「平成三十年十二月」運送事業法が改正されました。注目点は、国土交通大臣による標準運賃を定めた告示制度の導入であります。規制緩和と政策によって適正料金の收受や労働環境の確保が困難になりましたが、告示導入に関しては期待を寄せる思いです。然しながら、中小零細企業として返す事無く、命に尊厳、安全の大事さを再度周知して参ります。大会前にご家族と会話する機会があり、三歳の子が父の写真をみると突然泣き出す話を聞き、只々言葉が生まれませんでした。残された家族には心のケアも考えています。

以上報告として、大変申し訳ございませんでした。

日本海

トラックに関して、海コントラックとトラックを分けて、我々の考え方が言える場が出来た事で、各地方ごとの問題や課題が見え取り組み易くなり継続を願います。

トラックの標準運賃告示制度に対する取り組み方

規制緩和の施行により崩れた環境を立て直す期待として、国交省が標準運賃告示制度を導入、定着させるためには本部の思考なる取り組み方、進め方をお聞かせ下さい。

関生弾圧問題の取り組みについて

関生の件、東北大会での発言で、取り組みに関しては全大会での決議決定となるため、大会での承認が必要となる内容からすると、取り組みは来年の大会まで持ち越しとなるのですか。

安全問題を周知徹底

東北の死亡災害について報告をさせて頂きます。去る八月十四日十二時五分頃、ターミナル内ストラドルキャリア横転事故により、当組合員の死亡事故が発生し全国の皆様にご心配をお掛けしました事に深くお詫び申し上げます。事故詳細はまだ調査

中ですが、悲惨な事故を繰り返す事無く、命に尊厳、安全の大事さを再度周知して参ります。大会前にご家族と会話する機会があり、三歳の子が父の写真をみると突然泣き出す話を聞き、只々言葉が生まれませんでした。残された家族には心のケアも考えています。

以上報告として、大変申し訳ございませんでした。

トラックに関して、海コントラックとトラックを分けて、我々の考え方が言える場が出来た事で、各地方ごとの問題や課題が見え取り組み易くなり継続を願います。

トラックの標準運賃告示制度に対する取り組み方

規制緩和の施行により崩れた環境を立て直す期待として、国交省が標準運賃告示制度を導入、定着させるためには本部の思考なる取り組み方、進め方をお聞かせ下さい。

関生弾圧問題の取り組みについて

関生の件、東北大会での発言で、取り組みに関しては全大会での決議決定となるため、大会での承認が必要となる内容からすると、取り組みは来年の大会まで持ち越しとなるのですか。

安全問題を周知徹底

東北の死亡災害について報告をさせて頂きます。去る八月十四日十二時五分頃、ターミナル内ストラドルキャリア横転事故により、当組合員の死亡事故が発生し全国の皆様にご心配をお掛けしました事に深くお詫び申し上げます。事故詳細はまだ調査

東海名古屋

組織率は半数以上を占め、地方港も抱えています。もっと全港湾の主体性を反映させるために、全港湾の規約をしっかりと整備し、全港湾構成員の民主的運営を図る事が重要である。関西の中山さんの規約案を拝見しましたが、とても理にかなっていて素晴らしい物でした。この案を全港湾の案として全港湾規約改正に臨むべきでは。役員選考委員会の在り方についても民主的に行う必要がある。

ホワイト物流推進について

人員不足・高齢化が進む中、ホワイト物流推進運動の取り組みが進められること（地震・津波・噴火）の付与は、トラック業界が将来的に希望を持てる事になると思えますので、今後の運動の推進を拡大にご尽力頂きたい。

育児介護制度の取り組みについて

国の保障六七％では、正直生活は厳しいという話を聞かされたのか疑問を感じる。

未来に産別をいかにつなぐか

産別最賃問題（独禁法）問題は解決を見ず全港湾では今後の対応として中労委に対し「不当労働行為」或いは「団交は合法と認める裁判」に訴える、という二つの方法で進めると聞いている。日港協が産別最賃にこだわるなら、産別最賃を要求から外し、今後の春闘に臨めば日港協も正常な団交を阻害する理由は無くなる。未来に産別をいかにつなぐか、私たちの責務ではないか。全港湾から発信すべきである。

全国港湾規約について

全国港湾において全港湾の組織率は半数以上を占め、地方港も抱えています。もっと全港湾の主体性を反映させるために、全港湾の規約をしっかりと整備し、全港湾構成員の民主的運営を図る事が重要である。関西の中山さんの規約案を拝見しましたが、とても理にかなっていて素晴らしい物でした。この案を全港湾の案として全港湾規約改正に臨むべきでは。役員選考委員会の在り方についても民主的に行う必要がある。

ホワイト物流推進について

人員不足・高齢化が進む中、ホワイト物流推進運動の取り組みが進められること（地震・津波・噴火）の付与は、トラック業界が将来的に希望を持てる事になると思えますので、今後の運動の推進を拡大にご尽力頂きたい。

育児介護制度の取り組みについて

国の保障六七％では、正直生活は厳しいという話を聞かされたのか疑問を感じる。

未来に産別をいかにつなぐか

産別最賃問題（独禁法）問題は解決を見ず全港湾では今後の対応として中労委に対し「不当労働行為」或いは「団交は合法と認める裁判」に訴える、という二つの方法で進めると聞いている。日港協が産別最賃にこだわるなら、産別最賃を要求から外し、今後の春闘に臨めば日港協も正常な団交を阻害する理由は無くなる。未来に産別をいかにつなぐか、私たちの責務ではないか。全港湾から発信すべきである。

全国港湾規約について

全国港湾において全港湾の

組織率は半数以上を占め、地方港も抱えています。もっと全港湾の主体性を反映させるために、全港湾の規約をしっかりと整備し、全港湾構成員の民主的運営を図る事が重要である。関西の中山さんの規約案を拝見しましたが、とても理にかなっていて素晴らしい物でした。この案を全港湾の案として全港湾規約改正に臨むべきでは。役員選考委員会の在り方についても民主的に行う必要がある。

ホワイト物流推進について

人員不足・高齢化が進む中、ホワイト物流推進運動の取り組みが進められること（地震・津波・噴火）の付与は、トラック業界が将来的に希望を持てる事になると思えますので、今後の運動の推進を拡大にご尽力頂きたい。

育児介護制度の取り組みについて

国の保障六七％では、正直生活は厳しいという話を聞かされたのか疑問を感じる。

未来に産別をいかにつなぐか

産別最賃問題（独禁法）問題は解決を見ず全港湾では今後の対応として中労委に対し「不当労働行為」或いは「団交は合法と認める裁判」に訴える、という二つの方法で進めると聞いている。日港協が産別最賃にこだわるなら、産別最賃を要求から外し、今後の春闘に臨めば日港協も正常な団交を阻害する理由は無くなる。未来に産別をいかにつなぐか、私たちの責務ではないか。全港湾から発信すべきである。

全国港湾規約について

全国港湾において全港湾の

組織率は半数以上を占め、地方港も抱えています。もっと全港湾の主体性を反映させるために、全港湾の規約をしっかりと整備し、全港湾構成員の民主的運営を図る事が重要である。関西の中山さんの規約案を拝見しましたが、とても理にかなっていて素晴らしい物でした。この案を全港湾の案として全港湾規約改正に臨むべきでは。役員選考委員会の在り方についても民主的に行う必要がある。

ホワイト物流推進について

人員不足・高齢化が進む中、ホワイト物流推進運動の取り組みが進められること（地震・津波・噴火）の付与は、トラック業界が将来的に希望を持てる事になると思えますので、今後の運動の推進を拡大にご尽力頂きたい。

育児介護制度の取り組みについて

国の保障六七％では、正直生活は厳しいという話を聞かされたのか疑問を感じる。

未来に産別をいかにつなぐか

産別最賃問題（独禁法）問題は解決を見ず全港湾では今後の対応として中労委に対し「不当労働行為」或いは「団交は合法と認める裁判」に訴える、という二つの方法で進めると聞いている。日港協が産別最賃にこだわるなら、産別最賃を要求から外し、今後の春闘に臨めば日港協も正常な団交を阻害する理由は無くなる。未来に産別をいかにつなぐか、私たちの責務ではないか。全港湾から発信すべきである。

全国港湾規約について

全国港湾において全港湾の

関東

東京港渋滞問題に尽力を 二〇二〇オリパラで東京港周辺にはホッケー場、ボート競技場ができ、かなりの渋滞が予想され通勤や物流の停滞が危惧されている。この様な問題は後手後手ならぬ様、中央の協力をお願いしたい。

ドライバーイレ事情の改善

東京港では女性海コンドライバーが増えている。並びにつくとトイレに行けないことから、大人用おむつをはいて、水分を飲まないようにしている。女性労働者が増えていくなか、東京支部は環境改善に取り組んでいるので中央の協力もお願いしたい。

組織率は半数以上を占め、地方港も抱えています。もっと全港湾の主体性を反映させるために、全港湾の規約をしっかりと整備し、全港湾構成員の民主的運営を図る事が重要である。関西の中山さんの規約案を拝見しましたが、とても理にかなっていて素晴らしい物でした。この案を全港湾の案として全港湾規約改正に臨むべきでは。役員選考委員会の在り方についても民主的に行う必要がある。

ホワイト物流推進について

人員不足・高齢化が進む中、ホワイト物流推進運動の取り組みが進められること（地震・津波・噴火）の付与は、トラック業界が将来的に希望を持てる事になると思えますので、今後の運動の推進を拡大にご尽力頂きたい。

育児介護制度の取り組みについて

国の保障六七％では、正直生活は厳しいという話を聞かされたのか疑問を感じる。

未来に産別をいかにつなぐか

産別最賃問題（独禁法）問題は解決を見ず全港湾では今後の対応として中労委に対し「不当労働行為」或いは「団交は合法と認める裁判」に訴える、という二つの方法で進めると聞いている。日港協が産別最賃にこだわるなら、産別最賃を要求から外し、今後の春闘に臨めば日港協も正常な団交を阻害する理由は無くなる。未来に産別をいかにつなぐか、私たちの責務ではないか。全港湾から発信すべきである。

全国港湾規約について

全国港湾において全港湾の

る事は少なくなったが、今後も諦めず運動していくので、引き続き指導をお願いします。検数・検定の指定事業体問題について

日検闘争について、日検の裁判での偽装請負に関する主張は事実を捻じ曲げた主張であり、将来の検数業務の職域を脅かす問題となる。全国港湾の検査部会や検数・検定小委員会が解決をはかるべく運動の強化をお願いします。

関 西

産別最賃、港湾団交から切り離しては

産別最賃は中央港湾団交から切り離して春闘交渉を考えた方が良い時期ではないか。スト破りに対しては大規模な行動を

一九春闘のたたかいかいの中で、二三年ぶりの平日ストライキを執行したが、神戸のPC一八上組のスト破りがあった。労働組合として上組に対し、大規模な行動が必要だ。

分断に対しては団結の力でたたかうべき
国家権力による分断に対しては団結によってたたかなくてはならない。
内陸倉庫の実態調査を
通過貨物について、内陸倉庫へ貨物の流出に未だ歯止めがかからない状態に不安を感じる。中央本部として、内陸倉庫の実態調査を行って欲しい。

独占禁止法の問題について

て、中央労働委員会のあっせん案は独禁法に抵触しないので申し立てを取り下げるべきではなかった。日港協を不誠実団交として中央労働委員会で徹底的にたたかうべきだ。全国港湾、代議員数の登録人数割合

全国港湾の規約について代議員数は中執で決定し、基礎ベースを変えず、登録人数割合をすべきである。
コンパスシステムで自動化に危機感

ターミナル渋滞解消策として情報一元化のコンパスシステムがあり、シャシの共有化などがされるが、IT化でターミナルの自動化に拍車がかかるのではないかと危惧する。
第三者行為災害は被災者の立場にたって支払い対象に

海コンの横転事故について、ほとんどがドライバーの不注意が原因とされているが、偏荷重による横転事故も払拭できない。正確な偏荷重が探知できる3Dスケールを導入し設置してほしい。
公的年金、六五歳受給開始維持を

パスをはじめ運転手は高齢化に伴い事故の危険性も高まる。政府は年金受給開始年齢を引き上げを検討しているが、六五歳受給開始を維持する年金制度の拡充が必要。
改善基準告示の改善に取り組むべき

また、万一、公的年金受給開始年齢が先延ばしされたとしても、自動車運転手が働き続けられるように、休息期間

の延長など改善基準告示の改善に取り組むべき。
副業・兼業のメリット・デメリットについて
働き方改革実行計画で、副業・兼業についての規定が新設されている。副業・兼業は、労働者のキャリア形成や所得の増加など、また、企業にとっても優秀な人材の獲得・流出の防止等で競争力の向上が期待できるメリットがある。しかし、その一方、労働者の長時間労働が懸念され、健康や心身を害されるおそれや労災の適用範囲にも疑問がある。
第三者行為災害について
労災企業補償、第三者行為災害があった場合の議論はどうなったか。
第三者行為災害は被災者の立場にたって支払い対象に
第三者行為災害は労災保険の支払い対象としていないが、その他の保険でカバー出来ることから、関西では被災者或いは最悪の場合、遺族を優先とする論点から二〇一六年労災企業補償の改定で支払い対象とした経緯がある。中央でまとめるなら関西案を採用してほしい。

一年前の賃改協定が破棄され、不利益変更され、不当労働行為でたたかっている。
年別組合費の議論を
全港湾の加入にあたっては組合費の額がやはり問題となる。組合員の収入にあった年別組合費の検討を引き続きお願いする。

全日建連帯関西支部への大弾圧は、公判が行われていません。正当な労働組合活動を威力業務妨害、脅迫とされれば憲法二八条の崩壊であり労働組合として物言えぬ危機状態が迫っています。たたかう労働組合であるならば共闘して勝ち抜かなければなりません。
辺野古闘争支援、参加しやすい形を

辺野古基地建設について、中央は現地派遣の取り組みをするとしているが、いままでも実行したことがないので全国から参加しやすい形を早急につくってほしい。
先島諸島への自衛隊配備問題について
宮古島や石垣などに自衛隊が配備され、環境の問題や戦争のための準備配備でありこれらについて記載がされていない。記載してほしい。
原発発の取り組み強化を
原発事故被災者を忘れないため政府のごまかしを許さず取り組みを強化してほしい。
IR等の誘致、反対の取り組みを

IR・万博誘致について、反対行動による取り組みをおこなうべきと考える。港湾に

カジノをつくらせるな。
議案書本文の精査を
議案書の文章でかぶっている箇所が多くきちんと確認してほしい。
四国の取り組み経過報告
昨年十月に四国港湾労働組合協議会は四国地区港湾労使協議会を設立しました。一九春闘では労使協議会を活用し「六五歳までの定年延長」と「労災企業補償死亡・一〇三級について四〇〇万円」を獲得し、四国統一協定書を締結することができました。
八月二十三日、坂出港運会館に全国港湾玉田書記長を講師に招き、事前協議学習会を開催しました。組合員だけでなく、四国港運協会四名（会長、副会長、専務、事務局長）を参加させ、再度、事前協議の在り方を再確認させる、有意義な学習会が開催されました。
また、一昨年に引き続き、昨年十月に四国港湾三役で、三島川之江港運協議会に行き、今後の指定港化等について意見交換を行いました。
中央港湾団交の在り方見直しを
玉田書記長の来賓あいさつで、あっせんを取り下げ後「裁判訴訟」及び「不当労働行為救済命令申立」が提案されました。しかし、裁判及び労働委員会に係争し、勝ったとしても、今後の労使関係は良くならないと思います。二〇一二年十一月に制作された「協定書・確認書集」では三が水島港に移転し、雇用問題が発生する最悪の結果となっ

四 国

同盟)で中央港湾団交の在り方を記載しています。二〇春闘では産別最賃を切り離すように検討してもらい、もう一度、中央港湾交渉の在り方を見直してもらいたいです。
共謀罪への対応策を
昨年九月から一年間で全日建連帯関西生コン支部の組合員八〇人以上が逮捕又は勾留されています。また、ストライキに参加していても、関与したということで逮捕されています。これは明らかに「共謀罪」が適応されていることは間違いありません。全国港湾玉田書記長の来賓あいさつでも「港湾労働者が目障りである」と言われたように、全港湾が次の標的にされるもおかしくありません。中央本部としても共謀罪への対応策を考えてもらいたいです。

選挙闘争について
四国地本は七月の参議院比選区選挙について、民主党の吉田忠智氏を推薦することに取り決めました。四国だけでなく、全国の全港湾の仲間が携わったから当選できたと思っています。国会議員を全港湾の定期大会に呼ぶことによって、組合員の意識や選挙に対する取り組みも変わると思っています。中央本部として戦略性を持って取り組んでもらいたいです。

本四架橋の下で働く仲間の雇用・職域を守るために、今年度も本四高速との意見交換会、徳島県雇用対策等小委員会など、要請行動を取り組みました。また、五月に初めて四国運輸局自動車交通部に対し、本四架橋の現状と政労協会が引き続き守るよう要請行動を行いました。また、中央本部で中央交運労協や国土交通省に対して、要請行動があれば一緒に参加してもらえないでしょうか。引き続き、本四架橋雇用問題について、ご支援をお願いします。

ています。昨年九月二十六日に国土交通省港湾経済課課長が坂出に視察に訪れた際に、四国地本と意見交換を行い、厳しい地方港の現状を伝えました。また、四国運輸局・整備局合同要請行動の際に、坂出港ニューポートプランについて「積極的に関わってほしい」という回答を得られたことは労働組合と国土交通省との関係性が構築された成果だと感じています。中央本部としても、引き続き情報共有やご支援をお願いします。
本四架橋闘争、引き続き支援を

九 州

一九春闘、何が手のひらに乗ったか
ストライキ権行使について、伝家の宝刀であるストライキを、抜き放しの状態で何が手のひらに乗ったか？
産別最賃統一回答拒否問題、具体的見解を
裁判するのか、中労委に救済

産別最賃統一回答拒否問題、具体的見解を
裁判するのか、中労委に救済

産別最賃統一回答拒否問題、具体的見解を
裁判するのか、中労委に救済

産別最賃統一回答拒否問題、具体的見解を
裁判するのか、中労委に救済

産別運動の重要性は重々理解するが、今の中央本部はどこを見ているのか？地方港の実態をもっと把握するべき。全国港湾内において、地方港をもっと知ることが、全港湾としての立ち位置がより強固なものになる。今一度初心に帰って全港湾を強くしてもらいたい。



九月五日、急遽、中央港湾団交開催される

九月五日、放射線量検査の問題とRTG遠隔操作化導入問題とRTG遠隔操作化導入補助(港湾機能高度化施設整備事業)の問題、及び「はくおう」の臨時寄港問題、関連専門の労働環境整備の問題で、急遽、中央港湾団交が開催された。

「労働者の健康対策として十分理解している。口頭で対応していききたい」とした。これに対し組合側より「暫定確認書はまだ生きていない。将来の魅力ある港湾を考へていく」と確認を促す。東電からの補償がある間は、という条件付きながらも暫定確認書は生きていると業側は述べた。そのため、組合側より改めて、労働者の安全と健康を守るため、二〇二一年の暫定確認書に従い検査体制を維持するよう改めて強く求めた。放射線量検査について今までの通りの検査の継続を強く求めた。そして、引き続き四検で検査対応にあたることに異論は出されなかった。

RTG遠隔操作化導入補助(港湾機能高度化施設整備事業)の問題 RTG遠隔操作化導入補助の問題については、五月十六日付申し入れにおいて、公募に応じないよう業側に強く申し入れていたところであった。また、国交省も導入補助の検討にあたっては労使で協議し合意する必要があると認識していたところであったが、労使合意がないまま、名古屋港のNUCTにおいて導入補助が決定されたため、組合側より中央港湾団交の開催を求めるに至った点を説明した。



業側は「我々は自動化というより人間が作業する遠隔操

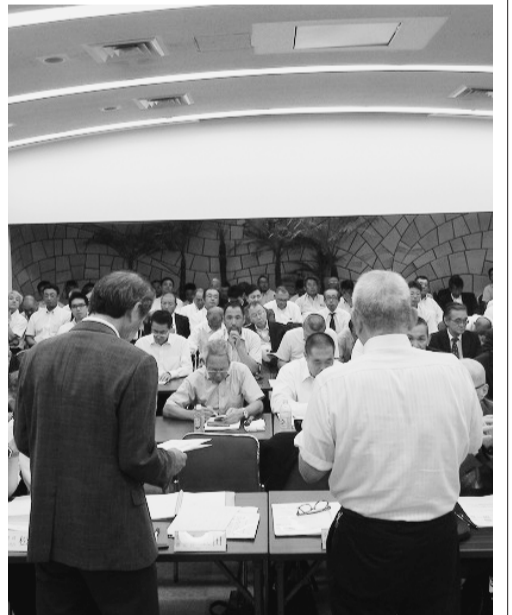
る場を考えた」と等の発言もあったが、今回の中央港湾団交の場では、組合側より導入は断固反対の意思表示をしたところを終了となった。

「はくおう」臨時寄港問題 事前協議違反で問題となっていた「はくおう」が釧路港に臨時寄港するとの情報が入ったため、業側に経緯詳細を報告するよう組合側より求めた。

この件について業側はある「ゆたか SHIPPING」の運行会社であり、九月中旬、高知―釧路間

告知板

- 東北地方本部 八月二十九日
 - 執行委員長 新妻秀樹、副執行委員長 二本柳英樹、書記 矢代正人、財政部長 吉田一夫、執行委員 荒谷祐多、鈴木紀彦、土田弘好、永洞光雄、長南安典、高木伸司、大門智、会計監査委員 阿蘇誠、武田晴喜
- 日本海地方本部 九月七日
 - 地方執行委員長 鈴木龍一、地方副執行委員長 法土豊行、面谷真奈樹、地方書記長 山賀茂、常任地方執行委員 長谷川貢、杉田恒、青山康治、茶畑芳郎、北村司、森口一男、地方会計監査委員 中尾哲、山田明彦、特別執行委員 真島勝重
- 日本海地方直江津支部 八月二十三日
 - 執行委員長 杉田恒、副執行委員長 和久井好一、書記長 大島哲雄、執行委員 布施光広、浮塚元彦、稲井太一、会計監査委員 八幡一也、小林泰栄 青年部長 渡辺敬介
- 日本海地方敦賀支部 八月十八日
 - 執行委員長 北村司、副執行委員長 藤田和憲、書記長 山田明彦、執行委員 山田恭史、坪谷徹、橋詰智章、藤田康弘、辻弘成、鈴木翔太、松田大、前川聡史、会計監査委員 岡野翔、岡本和也
- 東海地方本部(五支部) 九月四日
 - 執行委員長 鈴木勝也、副執行委員長 千頭和達也、畠中商博、地方書記長 大野裕康、地方執行委員 木村幸嗣、竹内栄広、榊原崇、六藤
- 四国地方本部 九月一日
 - 執行委員長 橋崎正伸、副執行委員長 竹森将一、書記長 元木啓次、執行委員 伊達健太、沖隆弘、中土井寛、菅剛正、明星英治、壬生知精、会計監査委員 糸川智也、北島春樹
- 九州地方本部 九月一日
 - 執行委員長 橋崎正伸、副執行委員長 佐野正弘、八塚一真、原田和彦、会計監査委員 山裕彦、山本浩也
- 遠東地方本部 九月一日
 - 執行委員長 遠東、副執行委員長 武口義人、書記長 原田雄司、執行委員 佐野正弘、八塚一真、原田和彦、会計監査委員 山裕彦、山本浩也



も今後対応していきたいとの話があった」と述べた。これに対し組合側より「沖縄の件については何らかの謝罪が必要」と改めて迫った。また、「ゆたか SHIPPING」が運行する別船に「ナッツチャンネル」があるが、七月、八月に苦小牧港に入っていたが通知等が全くなかった点を組合側より指摘、「ナッツチャンネル」についても「はくおう」同様に対応するよう業側に要請した。

共同デスクー同

伊藤 勇武	(北海道)
大門 智	(東北)
北村 司	(日本海)
河西 通雄	(関東)
畠中 商博	(東海)
鈴木 大介	(関西)
明星 英治	(四国)
津々見英一	(九州)
金城 正博	(沖縄)
片柳 悦正	(本部)

以上